

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】平成27年5月28日 (2015.5.28)

【公開番号】特開2013-215494(P2013-215494A)
 【公開日】平成25年10月24日 (2013.10.24)
 【年通号数】公開・登録公報2013-058
 【出願番号】特願2012-90636(P2012-90636)
 【国際特許分類】

A 6 3 C 17/01 (2006.01)

B 6 2 M 29/00 (2006.01)

【F I】

A 6 3 C 17/01

B 6 2 M 29/00

【手続補正書】

【提出日】平成27年4月13日 (2015.4.13)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ボード本体に設けられた走行ローラを操作するハンドル軸を折り畳むためのスケータのハンドル軸折畳み装置であって、

ハンドル軸の基端軸部と、当該基端軸部にハンドル軸心に直交する支軸を介して折り曲げ自在に連結された可倒軸部と、当該可倒軸部および基端軸部にスライド自在に外嵌される操作スリーブと、可倒軸部に設けられて操作スリーブを下方に付勢する付勢部材とを具備し、

可倒軸部を折り曲げた時に、前記付勢部材により、操作スリーブが基端軸部側にスライドされて、可倒軸部を折り曲げ姿勢でロックする折り曲げロック機構を設け、

前記付勢部材は、可倒軸部を起立させた時に、前記操作スリーブを可倒軸部から基端軸部にまで下降させてハンドル軸を直立状態で固定し、可倒軸部を支軸を中心に折り曲げた時に、前記操作スリーブを基端軸部側にスライドさせて、前記折り曲げロック機構を作動させる

ことを特徴とするスケータのハンドル軸折畳み装置。

【請求項 2】

折り曲げロック機構は、操作スリーブに形成されたロック用係合部と、基端軸部に形成されて前記ロック用係合部が係合可能なロック用凹部とを具備したことを特徴とする請求項 1 記載のスケータのハンドル軸折畳み装置。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 5】

請求項 1 記載の発明は、

ボード本体に設けられた走行ローラを操作するハンドル軸を折り畳むためのスケータのハンドル軸折畳み装置であって、

ハンドル軸の基端軸部と、当該基端軸部にハンドル軸心に直交する支軸を介して折り曲げ自在に連結された可倒軸部と、当該可倒軸部および基端軸部にスライド自在に外嵌される操作スリーブと、可倒軸部に設けられて操作スリーブを下方に付勢する付勢部材とを具備し、

可倒軸部を折り曲げた時に、前記付勢部材により、操作スリーブが基端軸部側にスライドされて、可倒軸部を折り曲げ姿勢でロックする折り曲げロック機構を設け、

前記付勢部材は、可倒軸部を起立させた時に、前記操作スリーブを可倒軸部から基端軸部にまで下降させてハンドル軸を直立状態で固定し、可倒軸部を支軸を中心に折り曲げた時に、前記操作スリーブを基端軸部側にスライドさせて、前記折り曲げロック機構を作動させるものである。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

請求項2記載の発明は、請求項1記載の構成において、折り曲げロック機構は、操作スリーブに形成されたロック用係合部と、基端軸部に形成されて前記ロック用係合部が係合可能なロック用凹部とを具備したものである。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

請求項1記載の発明によれば、操作スリーブを基端軸部側に付勢する付勢部材を具備したので、操作スリーブと可倒軸部および基端軸部との隙間を小さくして密に嵌合させることができ、直立状態でのハンドル軸のガタツキを低減することができる。また、可倒軸部を起立させるだけで、付勢部材により操作スリーブを基端軸部に外嵌させてハンドル軸を直立状態で固定することができ、操作性を向上させることができる。

【手続補正 8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 1 1 】

請求項 2 記載の構成によれば、操作スリーブを可倒軸部まで引き上げて、可倒軸部を倒伏させるだけで、付勢部材により基端軸部側に付勢される操作スリーブのロック用係合部を基端軸部のロック用凹部に嵌入させてロックすることができ、倒伏姿勢のロック操作を容易に行うことができる。

【 手 続 補 正 9 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 1 2

【 補 正 方 法 】 削 除

【 補 正 の 内 容 】

【 手 続 補 正 1 0 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 1 3

【 補 正 方 法 】 削 除

【 補 正 の 内 容 】